

2011.02.25 : 平成 23 年予算特別委員会第 1 分科会〔23 年度予算〕(企画調整局)

大河ドラマ「平清盛」の放映への対応について

清盛歴史花街道の整備と瀬戸内海の海道をよみがえらせるクルーズ船の出航

これまで何度も申し上げてまいりましたように、このたびのチャンスは、神戸、特に西神戸、そしてウオーターフロントと言われる南部ですね、これにとっては生きるか死ぬかの勝負のチャンスだと、こういうふうに私たちはとらえておりますので、そのあたりも同じ立場で考えていただきたいと、こう思っておりますし、昨年 12 月 7 日に、私は本会議で、矢田市長に総力を挙げて取り組んでほしいという願いをしたら、矢田市長は、打てば響くといういい回答をいただいて、やるよと、これをやらなければならんと、こういうことを言って、すぐに清盛の関係の推進協議会を立ち上げていただきました。そのときに私どもは、清盛の神戸の足跡をつないでいく歴史花街道や、あるいは清盛がたどった瀬戸内海の海道をよみがえらせるクルーズなんかも、してもらったかどうかというのを申し上げましたが、齊木統括監からは、もう本当にすばらしい、いい答弁をいただいたと思って喜んでおりますし、実現をぜひさせていただきたい、そう思っております。

ハーバーランドの再生について

新年度予算でハーバーランドに平清盛ドラム缶を整備するということが掲げられ——あつ、ドラム缶とちゃう、ドラマ館です——ごめんなさい、何で間違うんでしょうね。そういうことが整備するというので、予算が提案をされております。これ、一体、清盛とハーバーランドはどんな関係があるんだろうと、こういうふうに思うんですけれども、よほどの理由があるんだろうなと思っとなんですが、いかがでしょうか。きょうのこの日経新聞を見ておりましたら、ホテル運営のランドナー・ジャパン、ニューオータニへ進出と、こういうことが書いてありますね。これは、ハーバーランドにとってはすばらしいニュースなんです。もう次々出て行ってしまふから、あのハーバーランドは消えてしまうんじゃないかなと心配をしておりました。だから、このホテルが来てくださるということについては、ハーバーランドは清盛なくても活気は取り戻すことができるなど、こういうふうな思いをしておるんです。例えば、私は、あのハーバーランドはあんまり人が住んでいないので——住んでいる人もおるんですけれども、あんまりいないので、公営ギャンブルと言われる JRA とか、競艇とか、競輪とかいうようなものを誘致してみたらどうでしょうかと、こういうふうに思っておるんです。あそこに海面がありますでしょう、あの海面で競艇をやっていただいたら、どんなものでしょうかと、こういうふうなことも考えて、私も一生懸命、私なりに考えとるんです、一生懸命。だから、そのところもよく酌んでいただいて、一回検討してほしい。ハーバーランドを再生させてほしい。あれはもう笹山市長の物すごい思い入れのある土地でございますので、このことはぜひ、いい返事をいただきたいと、こう思っております。

答弁(山本企画調整局長)

ハーバーランドでございますけれども、平成にまち開きを行って以来、商業施設などの入れかわりもありながら、神戸情報文化ビル——神戸新聞が入っているところでございますが、商業ビル等の建設がされてきたところでございます。都心ウオーターフロントランドデザインでも、ここは商業・アミューズメントゾーンというふうな形で、観光・レクリエーション等の機能強化を強めていくという形にしています。最近の動き、万葉の湯が平成 22 年にオープンしております。それから、れんが倉庫、ウオーターフロント部では民間によるマンションの建設、それと、ホテルニューオータニがランドナー・ジャパンですか——私はちょっとまだ確認してないんですけれども、後継候補の企業と交渉中という形で聞いてございます。その他、いろいろとございますけれども、ハーバーランドの民間事業者などから構成されるハーバーランド運営協議会と、都市計画総局を中心とした役割分担のもと、連携して取り組んでいくことが必要かなと思ってございます。24 年度のまち開き 20 周年に向けま

して、23年度はいろいろと公共広場等の整備を行うということを聞いてございます。

あと、平清盛の質問がございましたですけども、23年度予算でございますけれども、目玉はないというのが本会議の話でございましたが、私は特徴的なものとしては、医療産業都市の推進、あるいはその国際コンテナ戦略の港湾、さらには滞在型観光の振興などを挙げてございます。その中でも平清盛関連が、もう観光の大きな目玉というふうに考えてございます。(仮称)平清盛ドラマ館でございますけれども、産業振興局が進める事業でございますけれども、「平清盛」の放送を機として、これまでとは異なる幅広い観光客が神戸に来ていただくことを期待しており、中央卸売市場西側跡地には兵庫津会場というのをつくと。ハーバーランドにはドラマの衣装とか、小道具とか、オリジナル映像などを楽しむドラマ館を整備すると。ドラマ館の立地については、ハーバーランドは海に近接しており、ドラマのテーマである海を感じられる場所であると。JR、地下鉄海岸線、神戸高速鉄道など、多数の鉄道駅に近接しており、観光バスも寄りつきやすい。また、遠方からの来訪や兵庫、長田へのアクセスがしやすいと、交通の利便性が高いと。短期的にハーバーランドの活性化に資するというようなことで、場所を選定したというふうに聞いてございます。

公営ギャンブルでございますけれども、大胆なご発想で、どう答えていいか悩ましいんですけども、ハーバーランドの地区計画が神戸文化軸にふさわしい文化・商業地区と、あるいはまた住人の方もいらっしゃるというようなことですので、土地利用方針とか、あるいは地元の事業者、住民の理解を得ることには、ちょっとハードルが高いのかなというふうに思っております。

新長田南地区の活性化について

次に、新長田南地区の活性化について、お伺いを申し上げますが、新長田の南地域というのは、震災からこちらへ再開発事業がもう随分進められて、大枚の資金を投じて再開発を進めてきていただきました。にぎわいを当然、取り戻すという立場から、どんどん頑張ってきていただいたし、地元の人たちも、そのことを夢見ながら一緒に頑張ってきたんです。けれども、今はあのまちを見てください。住宅は確かに入っておりますけれども、まちはシャッター通りなんです。夜のハーバーランドより——あっ、ハーバーランドじゃない、ポートアイランドよりもひどい状態、人が住まない。もう本当に赤いちょうちんがついてないというのが一番いカンのですよ。だから、そういうことを考えていったら、私は、この新長田の南には、もう最後の手段として、この清盛が来てくれるということは、これをどう活用するかによって、新長田が生き返るかどうかにつながってくるんですけども、それ以上に、神戸市のいろんな局はあそこへ行くべきだと、こう思っておるんです。私自身は、いろんな都市を調べてきました。名古屋、京都、大阪、堺を調べてきましたが、水道局なり交通局なり、いろんな局は行ってますよ。何もこの市役所の中に一緒におらんならん理由はないんです。だから、ここの市役所だって、この裏に民間のビルを借りとるでしょう。民間のビルを9階まで借り上げておるんですから、あれがあのまま行けばいいじゃないのと、こう思っておりますし、あそこにあります貿易センタービルの施設だってね、あちらにかわってもらえばいいんでね、それほど遠いところへ行くわけでもないし、交通局は15分あったら三宮とつながってますよと、こう言っておるのですから、そういうふうに平清盛と、その部局は向こうへ行くことで、生き返らせましような。ぜひ、それについていい返事をいただきますようお願いを申し上げます。一回ご回答をいただきたい。

答弁（今西企画調整局企画調整部長）

新長田の地区に市の部局の移転のお話でございますけれども、現在、行財政局の税部門が、アスタくにつか1番館に約800平米の床を借りて入居してございますし、再開発ビルでは残念ながらございませんけれども、新長田の活性化に資するためということで、新長田駅前ビルに神戸交通振興の本社部門が移転をしているという状況でございます。こちらの方は交通局のすべての広告の窓口をやってございますので、かなりの業者の出入りがあ

るということで、効果があるのではないかなという感じで思っています。

ご質問の耐震ビルなどの入っているところを移転すべしというお話でございますけれども、これから少し、ちょっとおしかりをちょうだいするかもしれませんが、各耐震ビルなどに入居している部局につきましても、移転の検討を私どもとしましては働きかけをさせていただいております。ただ、やはり本庁との連携とか、円滑な事務執行、迅速な意思決定を行う上で、本庁周辺からちょっと離れることは難しいというお話をいただいておりますし、交通局の方も、やはり経営管理部門は、営業所等が散らばっているということもあって、この三宮、現在のところが適地と。それから、やはり交通局の所有している駅ビルもちょっとあいてるということで、移転するならそちらをというようなお話をちょうだいしてございますし、商工センタービルも、ちょっと8割の入居を割り込むという状況で、ちょっと厳しいというお話をちょうだいしてございます。いいお話をということで、いいお話はちょっと何もなくて申しわけございませんが、今のところは非常に厳しい状況でございますけれども、都市計画総局とも連携して、各局、各団体に対しまして、これからも粘り強く、活用についての検討を要請してまいりたいというふうに考えてございます。

一方で入居率を高めるだけでなく、まちのにぎわいづくりも必要でございますので、企画調整局といたしましては、アニメ制作スタジオのアニタス神戸を新長田に誘致をさせていただきましたし、昨年11月には、旧二葉小学校を地域人材支援センターとしてオープンをさせていただいたというところでございます。また都市計画総局では、鉄人28号モニュメントによる、もちろん集客の回遊性向上を図るために、KOBÉ三国志ガーデンがこの3月にオープンをするということなど、地域の活性化に懸命に取り組んでいるという状況でございます。企画調整局といたしましても、新長田地域の活性化は、今後とも全庁一丸となって取り組んでいくべき重要な課題というふうに考えてございまして、都市計画総局をはじめとする関係局と連携して、最大限の努力をしてまいりたいというふうに考えてございます。

再質問

今西さんは、企画調整局お断り部というて書いた方がいいんじゃないか。断ることばかり考えとる。あなたね、断ってね、今言うたやつでね、新長田が活性化しておりますか。現実に活性化していないし、あそこの人たち、本当、もうこのままだったら首でもつらなないと、もうどうも生きていけないというぐらい追い込まれているんですよ。その人たちに夢と希望を持たせるためにも、あなたが断らんと、我々に断らんと、相手の局に断りよ。ここにおりたいんだという局に対して、何でここにおらないかんのかと。15分につながると、交通局はそういうことを大言壮語言うてきた。そういうことから考えたら、15分につながるところにね、神戸市都市計画局が主力になってやったまちなんですよ。あのまちが、今もう死のうとしておるときに、何とかしようというふうな気持ちにならないというのは、同じような気持ちに立ってくださいよ、我々と一緒に。地元を助けるということで頑張ってもらわないと、こんなこと今みたいに、お断り局の話では困るんでね。そういう立場で考えずに、あそこを助けるためには自分が犠牲になってでも行くよというぐらいのことを考えてやってくださいよ。ふんふんいうとけど、ほんまにする気になっとんかいな、あんた。ほんまにする気になって言うてくださいよ。

だからね、それは僕は、ぜひともお願いをしておきますんでね、今、私が言うとう、笑い事じゃないですよ、本当に地元住民はあす死ぬかもわからない。そんなもう本当に追い詰められた状況になっておるということを知っていただいて、考え直してもらいたいということを要望しておきます。

それから、局長さん、局長さんもいい答えをあんまりようけくれなんだ。余りようけいい答えをくれなんだけれども、平 清盛の扱いによっては、これは兵庫はとにかく平 清盛の足跡が一番多いところなんです。兵庫、長田、須磨、垂水と、こういうふうになるんでね、やっぱり西神戸なんです。西神戸が一番疲弊しているんです。これを平 清盛を使って頑張ろうというような気持ちになってももらわないといかんので——ゼロ、ゼロ、ゼロとなった。

次世代のこどもを育む市民会議について

次世代のこどもを育む市民会議を開催しております。これは、私自身は、子育て日本一のまちをつくってくれよということを、もう何十年言い続けとんですよ。もう耳がたこになっておるだろうと、こう思うんですけども、これは、子供局をつくってくださるという前奏と見ていいんでしょうかね、そのところを答えていただきたいと思います。あと9分です、お願いします。

答弁（山本企画調整局長）

子供局でございますけれども、先生ご承知のとおり、子育て日本一、常任委員会で質問が突然出まして、答弁したのは私じゃないかと思っておりますけれども、かつて子供のお仕事もやっております、子供局というのがどう移っていくかということは、非常に私も悩んでおる1つでございます、国の方は、子供家庭省をつくるかと言いながら、できてないと。幼保一元化もできてないという中で、これをどうするかということで、他都市を調べますと、子供未来局とか、子供家庭局とか、子供局とかいっぱいつくってます。ただ、現実問題として、やはり幼稚園と保育所の問題、障害児・者の問題といろいろございます。こどもを育む市民会議の議論の中で、そういった動きとか、考え方が統一されればできるかもわかりませんが、私は数十年この問題に取り組んでますが、非常に難しいというのが現実でございます。